

編集後記：2011年度より、シンポジウム記事担当となりました。気象学とその周辺の最新学術動向を簡潔かつ分かりやすく伝えてくれるシンポジウムコーナーは、私のお気に入りのコーナーでありましたので、その担当になれたことを心から嬉しく思っています。

さて、私は、今年の6月11日から7月29日にかけて、グリーンランドにおける気象・雪氷集中観測に参加してまいりました。幸いにも観測はほぼ予定通り遂行することが出来、加えて、一部報道にも出ていた記録的な融解も目の当たりにすることが出来ました。ここで得られた貴重な現場データを用いた研究成果を、これから気象学会等において発表していくことが今から楽しみで仕方ありません。この今回のグリーンランドでの観測では、我々はブロッキング高気圧に振り

回され続けたと言っても過言ではありませんでした。その位置や勢力の微妙な変化によって、晴れたり嵐になったりと気象状況はまさに千変万化したのです。私の専門は、大気-積雪相互作用に関する観測とモデリングですので、ブロッキングには縁遠かったのですが、今後は気象学会や「天気」等を通じて少し情報収集や勉強を試みようかしら、と考えたところです。現在の気象学会は、ウェブ情報が急速に充実してきておりますので、情報収集をする側にとっては非常に心強い存在となっております。

最後になりましたが、今後も多くの方々とシンポジウムコーナー、その他でお会いできることを楽しみにしております。引き続き「天気」をよろしく願います。
(庭野匡思)